

FACT④

熊本地震を機にBCP見直し サプライチェーンを強靱化

熊本地震の教訓を活かし飲料水の物流スキームを見直した。緊急時に備えて在庫拠点を分散、補充を平準化してコスト増を回避した。同時に従来のトラックと鉄道に加え、平時から海上輸送を利用することで代替手段を確保した。輸送ルートの複線化も進めた。メーカーに追加負担をかけることなく、BCPを見直した。

キリン
品質

運びきる
力があります。

提案力
に自信があります。

品質
にご届けします。

メーカーの供給責任を支援

昨年4月14日(木)と16日(土)の2度にわたり最大震度7を記録した熊本地震で、キリングループプロジステイクス(KGL)は18日(月)から車両20台を投入して飲料水「ボルヴィック」の緊急当日配送を行った。KGL本社側で対応に当たった物流管理部の川手英史は「現場がよく頑張ってくれた。お客様からお褒めの言葉もいただいた。しかし、教訓もあった」と振り返る。

ボルヴィックは生産国のフランスから日本の各消費地エリアに直接輸入している。九州にも福岡県南部のKGL朝倉支店に一定量を在庫している。そのため緊急の出荷要請にも対応することができた。しかし、キリンビバレッジが飲料水の主軸とする「アルカリイオンの水2L」は、主に静岡県の御殿場で集中生産し、全国の得意先に直接納品している。従って九州には在庫がなかった。

2011年の東日本大震災をきっかけにBCPの観点から東日本では在庫の分散を済ませていた。しかし、九州は他の地域と比べて大地震が起きる可能性は低いとみられていたこともあり、従来の体制のままだった。KGLはグループ会社のキリンビバレッジから在庫配分を任せられ、メーカーに代わって供給責任を果たす立場にある。と



物流管理部の川手英史

りわけ飲料水は災害時には真っ先に必要になる救済物資だ。有事の際に円滑な初動ができるように、スキームを見直す必要があった。ただし、飲料水は価格競争が激しい商品でもあり、コスト増は避けなければならない。

西日本の近畿(尼崎)、中四国(岡山)、九州(朝倉)のKGLの既存拠点もしくはその隣接地にそれぞれ在庫拠点を新設することにした。在庫を分散すれば安全在庫量は増える。しかし、製品寿命の長い飲料水なら、トータル生産量に影響を与えずに済む。在庫補充を平準化すれば輸送費も抑制できる。飲料水だけはフレキシビリティより安定供給を重視することにした。

同時に代替輸送手段を担保した。これまで九州への長距離輸送には主に鉄道を使ってきた。その一部を東京港へ博多港の海上輸送に切り換えた。さらに2016年10月、生産拠点の御殿場に近い清水港へ大分港間で貨物専用フェリー「RORO船」の定期航路が開設された。これを使って輸送ルートを複線化した。

一方、岡山への製品供給には従来トラックを使ってきたが、並行して鉄道も利用することに。川手は「平時にもオペレーションを回して実態を理解しておかないと、いざ代替手段が必要となった時にスムーズに動けない。普段からパートナー会社とコミュニケーションをとっておくことで、有事の際の協力も得やすくなる」という。

こうした対策が活きるのは大地震の時ばかりではない。異常気象や事故、火災等による輸送インフラの寸断、さらには輸送需給が逼迫する状況下で安定供給を維持していく上でも、BCPは有効に機能する。KGLはグループ向けに培ったサプライチェーン強靱化のノウハウを、今後は一般荷主にも提案していく考えだ。



物流に関するご相談・お問い合わせ <http://www.kirin-logistics.co.jp/>

キリングループロジステイクス株式会社

〒164-0001 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス

キリングループロジ

